

Patentfieldの生成AI新機能と知財・情報フェア出展

Patentfieldとは

Patentfield（パテントフィールド）は、AI技術を活用して特許調査・分析を高度化する**AI特許総合検索・分析プラットフォーム**です ¹。日本や主要各国の特許データを収録し、プロ向け検索やデータ可視化、AIによる類似検索・分類予測など複数の機能をワンストップで提供しています ² ³。従来専門知識が必要だった特許情報へのアクセスを簡易かつリーズナブルにするサービスとして2017年に創業されました ⁴ ⁵。2024年には生成AIを組み込んだ新オプション「Patentfield AIR」をリリースし、特許調査業務の効率化にも取り組んでいます ⁶ ⁷。

生成AIで8000万件の特許を「見える化」 – AIサマリー機能

2025年9月、Patentfield社は生成AIを活用した新機能「**AIサマリー**」を発表し、自社プラットフォームに標準搭載しました ⁸。この機能は**収録済みの約8000万件**にも及ぶ特許・実用新案公報の内容をAIが分析し、発明の核心（**用途・課題・効果・特徴**）を抽出して**平易な日本語**で自動要約・構造化するものです ⁸ ⁹。特許の情報量が膨大で専門用語も多い従来の明細書ですが、AIサマリーにより誰でも**発明のポイントを一目で把握**できるようになります ¹⁰ ¹¹。いわば特許を「読む」から「見る」へと体験を変革する試みであり、難解な特許文書の理解・検索・分析を非専門家にも直感的に可能とする革新的な機能です ¹² ¹³。契約ユーザーであれば**追加費用なし**で利用可能（Freeプラン除く）とされ、多くの企業ユーザーが恩恵を受けられるよう配慮されています ¹⁴。

Patentfieldの発表資料より。生成AIによって「8000万件の特許を見える化」し、膨大な特許情報から発明の核心を瞬時に抽出・要約するAIサマリー機能をリリース ⁸。誰もが特許情報にアクセスしやすくなることで、企業のイノベーション創出を支援する狙いがあります ¹⁵。

AIサマリー機能の内容と特徴

PatentfieldのAIサマリー機能には、大きく3つの特徴的なコア機能があります ¹⁶：

- ・**AIサマリー表示** – 生成AIが特許公報の全文を解析し、「何に使えるのか（用途）」「何を解決するのか（課題）」「どんな良いことがあるのか（効果）」「技術的なポイントは何か（特徴）」という4つの観点で**独自要約**を作成します ¹⁷。従来の要約欄ではわかりにくかった発明の要点が、**箇条書き形式**で平易に示されるため、一目で核心が理解できます ¹⁸。あわせて発明の用途・課題についてPatentfield独自の**分類ラベル**も自動付与され、発明のカテゴリーや技術分野が直感的に把握可能です ¹⁹。
- ・**AIサマリー検索** – 上記の要約テキストデータを検索対象に含めることで、専門用語に詳しくなくても**普段使う言葉で関連特許を検索**できるようになります ²⁰。例えば特許特有の言い回しを知らなくても、日本語の自然文でアイデアを入力すれば、AIが意味を理解し適切な関連特許をヒットさせてくれます ²¹。従来以上に**高い関連度**での検索結果取得が可能となり、特許初心者でも効率よく先行技術や類似特許を探せるとされています ²²。

- ・**AIサマリー分析** – 要約と共に付与された**用途ラベル・課題ラベル**を活用し、分野ごとに**技術のポジショニング**を可視化できます²³。特定技術分野について、どのような「課題」に対しどのような「用途」の特許出願が多いかを**マップ表示**できる機能で、研究開発や特許戦略上のホワイトスペース分析に役立ちます²⁴。従来は専門家が地道に抽出していた技術動向を、AIが自動分類したラベルで俯瞰できる点が大きな利点です²³。

AIサマリー機能で生成された「用途×課題マッピング」のイメージ。特定分野における出願動向を、縦軸＝解決しようとする課題、横軸＝適用分野（用途）でプロットし、どの領域に特許が集中しているかを一目で可視化できる²⁴。このようにAIが付与したラベルデータを使うことで、膨大な特許群の技術ポジション分析が瞬時に可能になる。

AIサマリーグローバル – 海外特許への拡張

Patentfieldは国内向けAIサマリーに加え、**海外特許にも対応した「AIサマリーグローバル」**の提供を2025年10月1日に開始すると発表しました^{25 26}。米国、欧州、中国、韓国、台湾、国際公開（WO）といった**主要国の特許公報**について、内容を機械翻訳した上でAIサマリー生成を行い、日本語で要約・分類ラベルを閲覧できるサービスです^{27 28}。これにより、日本語しか使えない利用者でも海外特許のポイントを**瞬時に把握**し、さらには日本語キーワードで海外特許を横断検索することも可能になります²⁹。グローバルな特許調査・分析の現場でも、母国語で「見る」**体験**が得られる点が画期的です³⁰。特に近年出願件数が急増する中国をはじめ海外特許情報への対応は重要で、Patentfieldはこのグローバル機能によって企業の国際的な知財戦略立案も支援するとしています³¹。なおAIサマリーグローバルは**法人向けのCorpプラン（5ID以上）限定のオプション**で、利用には月額基本料金の30%相当の追加料金が必要です³²。大企業の知財部門向けの高度機能という位置付けですが、その価値に見合う利便性向上が期待されています。

Patentfield AIR（生成AI調査・分析オプション）の概要

Patentfield AIRは、Patentfieldプラットフォームに**生成AI（大規模言語モデル）**の力を組み込み、特許調査・分析業務を飛躍的に効率化する**オプションサービス**です^{6 33}。2024年7月にリリースされ、2025年には無料トライアルキャンペーンも実施されました^{34 35}。Patentfield AIRを利用すると、Patentfield上で検索した**最大1万件もの国内外特許文献セット**に対し、ワンクリックでChatGPT-4やGoogle Geminiといった好みの生成AIモデルに要約・分析を実行させることができます³⁶。生成AIが**明細書の内容を理解し要約や分類ラベル付与、数値データ抽出**まで自動で行い、その結果をPatentfieldの検索結果画面上で元の公報テキストと並べて確認できるのが特徴です^{37 38}。さらに結果はそのままマップ可視化機能に連携でき、例えば競合の技術動向分析や新規用途探索といったシーンで、**圧倒的なスピード**で洞察を得ることが可能になります³⁹。従来は人手で膨大な時間を要した特許文献の査読プロセスが大幅に短縮され、Patentfield社によれば**特許読み込み時間を約65%短縮**できるとの試算もあります^{40 41}。また、検索から分析に至る一連の調査工程全体でも**最大80%の時間削減**を実現し得るとも報告されています⁴²。実際、Patentfield AIRは**知的財産部門や特許事務所からも注目を集めており、多くの契約を獲得**しているとされ⁴³、特許調査の現場で革新的サービスとして高い評価を受けつつあります。「人間とAIの協調」によって“眠れる特許”を企業成長の原動力へ変えることを目指すPatentfieldの取り組みは、知財業界でも大きな関心を集めています。

2025知財・情報フェアへの出展内容と反響

Patentfieldはこれら生成AIを活用した新機能群を引っ提げ、**2025年9月10日～12日に東京ビッグサイトで開催された「2025知財・情報フェア&コンファレンス」**に出展しました⁴⁴。同社ブース（西ホール3・4、ブース番号W3-10）では、上記の**AIサマリー新機能**および**Patentfield AIR**の展示紹介が行われ、来場者が実際に機能を体験できる場が提供されました⁴⁵。ブース内では1時間に1回の頻度でミニセミナーが開催され、「**生成AIを活用した新機能紹介**」と「**Patentfield AIRの紹介**」という2テーマで定期的にプレゼンター

ションが行われました⁴⁶。事前申込不要・無料のカジュアルなセミナーながら、連日多くの参加者が足を止め、最新の生成AI活用術に熱心に耳を傾けていたようです。さらにブース来訪者には**来場者限定ウェビナー**の案内チラシも配布され、その特典として**AIサマリー新機能およびPatentfield AIRを1か月無料で試せる**トライアルアカウントが提供されました⁴⁷。無料トライアルでは約2000件分の特許公報を処理できる枠が用意され（GPT5.1-nano使用時の場合）⁴⁸、多くの企業担当者がこの機会に自社課題で新機能の威力を試そうと関心を示したと考えられます。

また、会場内の特設ステージでは「**Patentfieldが描く『生成AI×特許情報』の次世代化**」と題した出展者プレゼンテーションが9月12日に行われました⁴⁹。こちらは事前申し込み制でしたが、**満席御礼となる盛況ぶり**で、当日の追加聴講受付が停止されるほどの人気ぶりだったとのことです⁵⁰。この満員の聴衆は、特許業界における生成AI活用への関心の高さを如実に物語っています。実際、特許庁も含め知財コミュニティ全体で特許調査・分析のDX（デジタルトランスフォーメーション）に注目が集まる中、Patentfieldの提案する「特許を読むから見るへ」というコンセプトはタイムリーであり、多方面から評価・関心を得ています¹¹¹³。メディア各社もこの発表を取り上げ、ExciteニュースやDXマガジン、VOIXなどが「難解な特許をAIで自動要約し、直感的に内容把握」「平易な日本語で関連特許を検索可能に」といったポイントを伝えています⁵¹⁵²。あるニュース記事では「**もう特許は『読む』な、『見る』！**」とキャッチコピーを掲げ、発明の核心を瞬時に見える化するAIサマリー機能が「**会社の宝探しをサポート**」するとまで評されました¹¹。これは特許情報の持つ価値を誰もが引き出せるようにしたいというPatentfieldの狙いを的確に表現したものでしょう。村上直也CEOも「特許情報へのアクセスを一部の専門家だけのものにせず、**誰もが特許情報にアクセスでき、それを企業のイノベーションにつなげてもらいたい**との思いからAIサマリーを開発した」とコメントしており¹⁵、同社のビジョンに対して概ね好意的な評価が寄せられています。

総じて、Patentfieldの新機能「AIサマリー」とそのグローバル展開、そして生成AIオプション「Patentfield AIR」は、煩雑だった特許調査のプロセスを劇的に効率化し、“眠っていた特許情報”を企業価値向上に活かすための**強力な武器**として迎え入れられつつあります⁵³⁴¹。2025年の知財・情報フェアでも高い注目を集め、その場での反響や各種メディアでの評判も上々です。特許業務のDXを推進するこれら生成AI機能が今後どのように普及し、知財業界に定着していくのか、引き続き注目されます。今回のPatentfieldの取り組みは、日本企業のイノベーション創出を陰で支える**知財インフラの新たな一歩**として評価できるでしょう⁵⁴。

参考資料: Patentfield公式プレスリリース、DXマガジン記事、PR Timesニュース、VOIX記事、Patentfield公式note他⁹⁵¹³³¹¹。

¹ ⁴ ⁹ ¹⁰ ¹² ¹⁴ ¹⁵ ¹⁶ ¹⁷ ¹⁸ ¹⁹ ²⁰ ²¹ ²² ²³ ²⁴ ²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ²⁹ ³⁰ ³¹ ³² ⁵⁴ [Patentfield] 生成AIで8000万件の特許を「見える化」。AIサマリー機能をリリース！グローバル特許にも対応したAIサマリーグローバルを10/1にリリースします。| Patentfield株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000059.000025380.html>

² ⁵ ³⁵ ⁴³ ⁵³ 特許調査を革新！Patentfield AIRが無料トライアル開始 | +VISION®【プラスビジョン】
<https://vision00.jp/topic/9644/>

³ AI・機械学習・LLM等の特許調査ツール比較まとめ | arisada | スタートアップ知財コンサル
<https://note.com/arisadaman/n/na8cece4eb88b>

⁶ ⁷ ³⁴ ³⁶ ³⁷ ³⁸ ³⁹ [Patentfield] 生成AIを搭載した特許調査・分析オプションサービスを本日7/1リリース | Patentfield株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000047.000025380.html>

⁸ ¹³ ⁵¹ ⁵² 特許を“読む”から“見る”へ——Patentfield、生成AIで8000万件の特許を要約する「AIサマリー」提供開始 | DXマガジン
<https://dxmagazine.jp/news/2541rk40/>

11 生成AIのホットな情報をお届け！AIニュースRUSH #14 | 蟒蛇 来都（うわばみ らいと）

<https://note.com/uwabamin/n/nc80ccad91159>

33 44 45 46 47 48 49 50 Patentfield 「2025知財・情報フェア&コンファレンス」 出展のお知らせ | Patentfield株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000057.000025380.html>

40 生成AI特許検索・調査・分析・査読 | Patentfield AIR | Patentfield株式会社

<https://evort.jp/article/patentfield-air>

41 42 yorozuipsc.com

<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/a9d12d0a6a1122850daa.pdf>